21 漁夫補網　三輪大次郎

明治二十四年（一八九一）　油彩・カンヴァス
六二・五×九四・五

三輪大次郎（一八六八～一九五二）は、江戸時代から続く新潟の豪商大阪屋・三輪家に生まれた。兄の潤太郎が家業を継ぎ、大次郎は京都府画学校で絵を学んだ後、上京して、小山正太郎の画塾・不同舎に入門した。その後には川村清雄にも師事している。そして明治美術会を中心に活動し、後に京都に移って日本画家に転向した。

本図は、明治二十四年の第三回明治美術会展覧会にて買い上げられたもの。画面のほぼ中央に水平線が設けられた安定した構図で、浜辺に腰を下ろし、黙々と漁網の穴を繕う漁師たちの姿が描かれている。対象の形を明確にとらえ、はっきりとした陰影をつけて描くところに、当時の明治美術会の特徴がうかがえる。日本海特有の低くたれ込める空の下、漁師とその家族だろうかまだ幼さの残る少年らは全員顔を伏せ、黙々と作業をこなしており、感情はうかがえない。漁師たちの隣に置かれた漁船には網やゴザがいくつも掛けて干してあり、砂浜には縄の切れ端や、焚き火の後の焦げた木々がうち捨てられている。労働が生活そのものである漁村の当たり前の日常が、画家の冷静な目で描き出されている。画面右下には「三輪大次郎　明治廿四年春日」のサイン・年記と「春溟」と読める朱文方印風の描印が認められる。

・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。

・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出典を明記してください。また，図版を出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

近代の洋画家、創作の眼差し
三の丸尚蔵館展覧会図録No.52

編集　宮内庁三の丸尚蔵館
制作　株式会社　東京美術
翻訳　横溝廣子
発行　宮内庁
平成二十二年十月三十日発行

©2010, The Museum of the Imperial Collections